## IMAGICA Lab.

# 「U akasaka」を赤坂拠点内に開設

## 会議室に編集室機能を追加

IMAGICA Lab.（東京都品川区）は、会議室に編集室機能を追加した施設「U akasaka」（ユー アカサカ）を、IMAGICA Lab. 赤坂ビデオセンター内にオープンした。CM制作における編集作業は近年、コスト配分やスタジオ・ブッキングの手間を削減するなどの理由で、会議室などを利用するケースが増加。同社はこれを受け、会議室の機能を持ちながら、長時間の編集作業や映像試写ができるよう椅子や照明、防音に気を配った環境を構築。映像編集の場として新しい選択肢を提供していく。

エディターとディレクターが協業する

U akasakaは、交通至便で制作会社や広告会社へのアクセスも良い赤坂ビデオセンターの3階に開設した。広さは約30平方㍍。名称のUは〝「ユナイト」（1つになって）「ユニーク」（唯一無二のものを）「ユニゾン」（共創する）空間〟というコンセプトに基づいて命名した。

営業を担当する伊藤純子氏（CMプロダクション事業部テクニカルプロデュースグループ）は「これまで顧客は編集室か会議室かと二択を迫られていたが、私たちは設備面、価格面で双方のいいとこ取りをした、いわば〝中間〟の部屋を用意した。コロナ禍以降も利用が見込まれるリモート試写やリモート会議にも対応している」と話す。

## 映像編集の場に新しい選択肢を提供

伊藤氏

渡辺氏

企画にあたっては、CM制作の関係者を対象にアンケートを実施し、集まった50件近い数の要望を分析した。その結果、最も望まれる設備が「ウェブ予約システム」と「プリンター」だと判明。伊藤氏は「そこで、空き状況をタイムリーに確認し予約できる当社オリジナルのウェブ予約サービス『SMART BOOKING』を導入することを決め、より身近にポストプロ施設を利用してもらえるよう整備した」と説明する。

なお同室にエディターは常駐していないため、予約時にオプションでの申し込みが必要。

### ◆U字型のテーブルで編集と会議が可能

システムおよび室内環境は、同社エディターである渡辺聡氏（CMプロダクション事業部テクニカルプロデュースグループ）が、自身の経験をもとに設計した。渡辺氏は「ベースは貸し会議室であり、シンプルな内容だが、そこに当社なりのアイデアを付加することで、会議にも編集にも利用しやすい環境とした」と説明する。

まず部屋の中央にはコンセプトを表すU字型のテーブルを設置し、その一角を編集ブースとした。

卓上には作業モニターやスピーカー、マウスやキーボードなどの周辺機器があり、持ち込みのコンピューターをサンダーボルトケーブル1本で接続すれば、快適に編集できる。椅子は編集室と同じ高品質な肘掛け付きで照明は調光機能付き。テーブル正面のメインモニターに光が映り込まない工夫がされており、防音設計も施されている。U字テーブルとは別に、壁沿いには制作担当者が座る長テーブルを置いた。

リモート試写には同社のシステム「IRCA」（オプション）を利用できる。渡辺氏は「映像試写用に開発したものなので画質、音質とも良好で制作プランを書き留めたところ非常に便利だったことから取り入れた。渡辺氏は「この部屋を利用した顧客ほぼすべてが使用するなど好評。会議室のいいところを取り入れた点の1つだ」と話す。

U akasaka

すぐに使い始められる。既に銀座7丁目スタジオでも使っており実績は高い」と説明する。

機材の使い方は特設専用サイト内にあるFAQで分かりやすく解説する。万が一トラブルが発生した際も、サイトに記載された連絡先によるサポートが用意されている。

会議室としての機能も充実させた。U字テーブルには6人程度がゆったり座れる広さがあり、参加者全体と発言者を分割画面で映し出せる360度対応ウェブカメラを使い、快適にリモート会議ができる。予備を含め椅子17脚を準備するなど十分な収容数を備えている。

壁には大型ホワイトボードを掛けた。これは渡辺氏が会議室で編集をした際、そこにあったホワイトボードに編集内容や顧客の背を見ながら作業をすることが多い。U akasakaでは皆がU字型のテーブルを囲むので、エディターも皆の顔を見ながら一緒にものをつくることができる」と説明。よりクリエイティビティの高い作品づくりに貢献できるという。

また営業面ではウェブ予約システムを採用したほか、実利用時間ではなく、予約時間からの料金算出を取り入れたことも新しい取り組みとなる。

伊藤氏は「運用を始めて約1カ月が経過し、顧客からは料金システムについて理解が得られていると感じている。気軽に利用できるので、ノートPC1つで制作してきた若いクリエイターと接点を持つきっかけにもなる」としたうえで、「U akasakaを会議室でも編集室でもない、第3の選択肢として提供していきたい」と話している。

なお、同室は7月末日まで施設料無料キャンペーンを実施している（人件費は無料キャンペーン対象外）。

### ◆制作陣との協業を深める環境

同社はU akasakaの開設を通じ、ポストプロの新しい形態も探っている。

制作面については、監督をはじめとしたスタッフと、これまで以上に協業を深められる環境を目指した。渡辺氏は「ポストプロにある多くの編集室では、エディターは顧

またセキュリティー対策として部屋はオートロックとした。室内には監視カメラを設置しており、夜間の建物への入館にはパスワードが必要となる。なお、利用後は原状復帰後の退去を求めている。

## アドビ

## 生成AIをイラレに搭載

### ベクターアートの配色を変更

アドビはジェネレーティブAI「ファイアーフライ」の機能「ジェネレーティブリカラー」を「イラストレーター」に搭載した。現時点では英語版で提供され、日本語版は後日搭載する予定。

ジェネレーティブリカラーは、デザイナーが簡単なプロンプトを入力するだけで、ベクターアートの配色を瞬時に変えられるツール。

これまで企業は製品パッケージの開発やウェブサイトのリニュールなどのたびに、候補となる色のバリエーションを手作業で生成していたが、ファイアーフライを導入することでプロセスのスピード向上が見込める。

アドビは5月に、フォトショップにファイアーフライを搭載した「生成塗りつぶし」を導入。3週間で1億5000万枚以上の画像を生成した。


Venera　QCツールといえば、Veneraの（ベネラ）Pulsar（パルサー）

Netflix, AWS
Amazon Prime
認定QCツール

素材のリンク切れ　Media Offline（メディア オフライン）検知機能を新たに搭載

用途に合わせた3モデルをラインアップ

Professional　4ファイル同時解析のフラッグシップモデル
Standard　1ファイル解析の標準モデル
Basic　基本機能にフォーカスしたエントリーモデル

Pulsarが選ばれるわけ
- 国内ユーザーのご要望に対応した機能を多数搭載
- RDD9解析テンプレート標準搭載
- 業界標準のハーディング解析機能（オプション）
- CMオンライン入稿レイアウトチェック機能
- モスキートノイズ検出機能
- ウォッチフォルダ機能

ITOCHU　伊藤忠ケーブルシステム株式会社　クロスメディアソリューション本部

Pulsarの優れた機能をすべて試せるデモライセンスのご要望は、
下記URLかQRコード、お電話よりお申し込みください。
https://itochu-cable-systems.jp/inquiry/　Tel. 03-6277-1854